



ほげんだより

23年度7月号
明照保育園



【子どもの健康状態】



急に暑くなった6月は乳児幼児共に熱が多く、次いで嘔吐、下痢、咳でした。感染症の報告としては、りんご病、溶連菌、手足口病があり、他には結膜炎、ぜんそく、突発性発疹、中耳炎も少し出ています。どんな感染症でも予防と早期発見が、子どもを含め家族を守ることに繋がります。また、夏本番となり体力のおちる時期です。睡眠・食事・適度な運動と、日頃からの生活リズムがより大切になってきます。早めに就寝して疲れをとり、食事をしっかり食べて元気に遊びましょう！



予防にはやっぱり

てあらい うがい



【検便（寄生虫卵検査・前検）結果と後検について】

前検の5/23～5/25では、回収のご協力ありがとうございました。前検の結果ができましたのであゆみノートに入れてお知らせします。前検では全員寄生虫卵の検出はありませんでしたので、未提出だった子のみ後検のお知らせをします。

- | | | |
|---------|------|---|
| 7/1 (金) | 配布 | ★7/6 (水)の午後に業者の人が取りに来ます。 |
| 7/4 (月) | } 回収 | 3日間で便を採取して持ってきてください。 |
| 5 (火) | | ★前検で未提出だった子は、今回の後検も提出できなかった場合、個人で医療機関にて検査し、結果を園まで報告してもらうこととなりますので、必ず提出するようお願いします。 |
| 6 (水) | | |

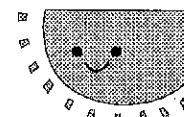
【気をつけよう 夏に多い感染症】

りんご病（伝染性紅斑）

◆●症状◆両方の頬が赤くなり、その後1～2日してから腕や太ももに発疹が出来ます。軽く熱が出ますが出ない時もあります。発疹が出る1週間～10日前に、発熱、筋肉痛、倦怠感が見られる事があります。発疹はかゆみを伴う事が多く通常5～7日で消えていきますが、一旦消失した発疹が日光や運動などによって再び出現してくる事があります。

◆●治療◆特別な治療薬はありません。1週間くらいで自然に治ります。熱いお風呂に長時間はいると赤みが強くなって長引く事がありますので、短時間で切り上げましょう。運動で体が熱くなったり日光に長く当たると、長湯と同じように赤みが長引きます。

夏を元気にすごす



健康管理のポイント

夏は、子どもたちも活発に活動する季節です。元気にすごすためにも、普段の子どものようすをよく観察しておきましょう。夏に多い感染症は目や皮膚などにも症状があらわれるものがありますので確認してみてください。

夏に多い感染症

●手足口病

手足口病になると手のひら、足の甲や裏、手や足の指と指の間、唇や口の中に水疱ができます。また、発熱したり、のどの痛みによって、食欲が低下したりすることがあります。のどに刺激がなく口当たりのよいもの(ゼリー、とうふなど)を与えましょう。ほとんどの場合、3日～1週間程度で自然に回復しますが、まれに髄膜炎を起こすこともありますので、頭痛や嘔吐などに注意をしましょう。

●咽頭結膜熱（プール熱）

咽頭結膜熱はプールでの感染も考えられることからプール熱と呼ばれています。アデノウイルスの感染による発熱、のどのはれや痛み、結膜の充血などの全身症状をとまいません。家庭では安静にし、高熱による脱水症状が起きないように水分補給を心がけます。感染力が強いのでおもな症状がなくなつてから2日経過するまでは登園をひかえます。

●流行性角結膜炎（はやり目）

アデノウイルスなどの感染によるウイルス性結膜炎です。目やにや充血、涙目などと共に発熱、のどの痛みなど全身症状をとまなう場合があります。感染力が強く、はやり目とも呼ばれています。家庭では、タオルの共用などをしないように注意が必要です。感染力が強いので医師から感染の恐れがなくなったと判断されるまでは登園をひかえます。

●ヘルパンギーナ

口の中に水疱ができる夏かせの一種です。発熱と共にのどの痛みをとまいません。上あごなどの口の粘膜に赤い小さな水疱ができます。のどの痛みなどで食事が十分にとれないこともあるので、口当たりのよいものを与えるようにします。また水分補給も心がけます。熱は2～3日で下がり、おおむね1週間程度で全快します。

